

## 小児心身症を思わせながら漢方治療が奏効するケースの検討

責任者:大宜見 義夫

コメンテーター:徳留 一博

種々の心身症状を訴え、カウンセリングや西洋薬の治療を受けてもなかなか改善をみないケースの中に漢方治療が奏効するケースがある。

一方、漢方治療が効きそうで効かず、心理療法が奏功するケースもある。漢方治療と心身医療を併用することで改善するケースもある。

これらのケースについて自験例を中心に検討を行った。

漢方治療が奏効するケースの特徴として、訴えや症状が一貫していて漢方医学的所見との間に乖離がなく証の決定に混乱をきたさない、漢方治療に対して患者自身、前向き・積極的で症状に不自然さがない、特定の症状や心身の不調感がだらだら続く、夏休みなどの長期の休暇中でも症状は必ずしも消失しない、交友関係には問題がない、調子のよいときはパッと登校するケースなどに多くみられた。